わたしの夢、語ります

山口 聖斗（きよと） さん　美浜西小学校 6年（気山）

歴史の楽しさをみんなに

僕の夢は、歴史学者になることです。理由は、歴史は知れば知るほどおもしろい、ということをたくさんの人に教えてあげたいからです。

僕は4年生の時に「歴史なんて、過去のことを知っても意味がないじゃん」と思っていました。でも、歴史を学んでいくうちに「昔の人は、こんなことをしていたんだ」と思うようになり、特に戦国時代のことを学んでいると、「こんな戦術があるんだ！」「こうやって敵を倒したんだ！」と驚くことばかりで、学んでいて楽しくなりました。

歴史がおもしろいということを知ってもらうために、もっと勉強して家族や友達にも教えたいです。

CONTENTS　目次　　広報みはま2024年8月号

2　わたしの夢、語ります／表紙の写真／目次
3　庁舎内部の大規模改修工事について(事前告知)
4　日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」に認定
12　みはまシナプスプロジェクト
14　まちウォッチング
浜開き式 / ふるさと美浜元気プロジェクト / 早瀬区自主防災会 防災訓練 他
16　美浜町職員募集
17　定額減税補足給付金(調整給付金)を支給します
18　まちのニュース
社会を明るくする運動 キャラバン隊　巡回実施　他
19　情報BOX
第 37 回美浜町民レガッタ参加クルー募集 / イルカの出没に注意してください 他
24　美浜発電所の状況について
26　すこやか放送局
27　ふるさと昔よもやま話147／文芸欄
28　ハートフル広場
はじめてバースデー／町人さん／慶弔／人口の動き／広報クイズ
30　くらしのカレンダー

- 表紙の写真 -

7月13日、14日に行われた弁天祭です。

男衆が宗像神社のご神体を乗せた御神輿を担ぎ、色鮮やかなのぼりを立てた船に乗り込むと、笛や太鼓で囃子を奏でながら海に繰り出していました。

船上では、若い衆が相撲を取る等して海へ落とし合い、祭りを盛り上げていました。

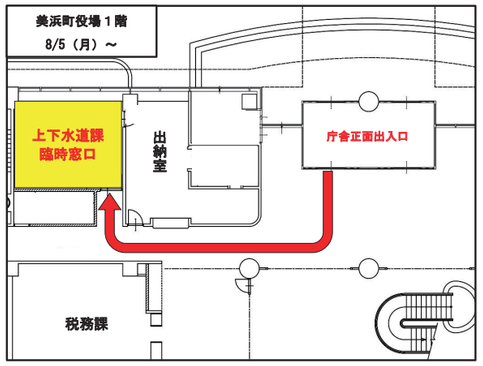
庁舎内部の大規模改修工事について（事前告知）

8月より庁舎内部の大規模改修工事を予定しています。

工事は、来庁者の利便性及び職員の事務効率向上を目的として、1階各課の配置見直しを含めて工事を行うため、工事中及び工事後の窓口の場所が変更となる場合があります。

窓口の場所の変更については、随時、周知を行っていきますが、来庁者の皆様には、ご不便をおかけすることになります。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いします。

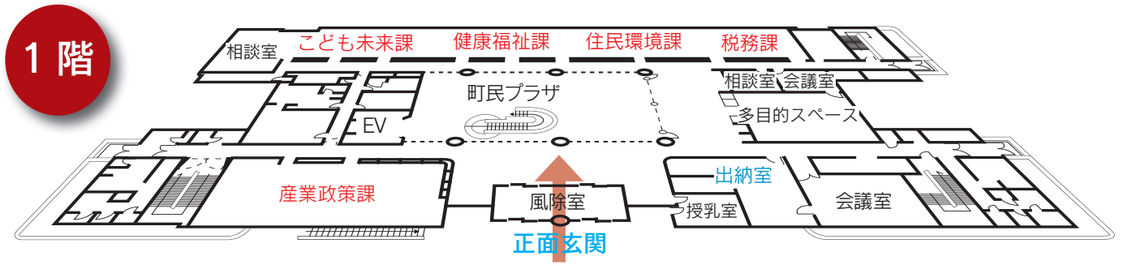
※8月5日(月)より別棟を改修するため、左の図のとおり庁舎1階に、上下水道課の臨時窓口を設置します。



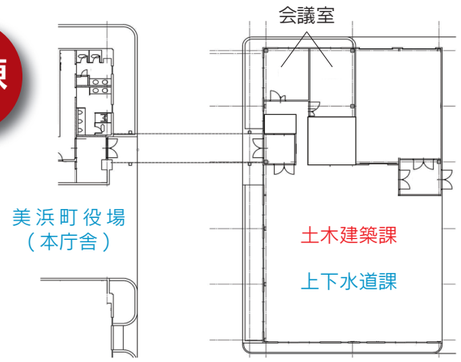
役場庁舎 工事後の各課配置図　※２階変更なし

※移動する部署を赤字で表記

1階



別棟



↑役場別棟にある上下水道課内に、土木建築課が移動します

※お問い合わせ先　町総務課（担当・浜野）☎ 32－6700

福井県美浜町
日本遺産
「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に認定

JAPAN HERITAGE
日本遺産

入港する北前船（小浜湾 井田家旧蔵古写真・福井県立若狭歴史博物館提供）

◆日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない、魅力あふれる有形や無形のさまざまな文化財群を地域が総合的に活用する等して国内外に発信することで、観光誘客や地域活性化を図ることを目的としています。

◆認定の経緯

本町における北前船の歴史は、これまであまり深掘りされることはありませんでしたが、一般社団法人地域連携研究所への参画を契機に2年の歳月を費やし、さまざまな調査を行った結果、認定に足る数々の構成文化財を確認しました。北前船が本町にもたらした伝統や文化は、今も色濃く地域に受け継がれています。

船主集落の町並み（早瀬）

江戸から明治　民を支え、夢と文化を運んだ北前船

北前船とは、江戸時代の中頃から明治30年代まで、日本海回りで現在の大阪と北海道を往復しながら商いを行っていた商船の総称です。

日本海側の港は、古くから栄えてきた港が多く存在したため、各寄港地に寄り、安い品物を買い、積み荷を高く売れる港で売るという「商売」をしていました。

北前船は、食料から生活用品、綿花等さまざまな商品を取り扱い「動く総合商社」として活躍し、北海道から大阪を1往復することで、千両（現在の約6，000万円～約1億円）の利益を得ることができたと言われています。

武士を頂点とした身分制度の時代に、庶民が自分の才覚と努力で、大金持ちになるチャンスをつかむことができる北前船は、庶民の夢物語でした。

美浜町の早瀬、久々子、坂尻、丹生の集落からも多くの北前船が出航しています。特に早瀬地区には多くの船主が住み、大小含めて数多くの北前船を所有する、町内きっての寄港地であり、経済的に大変豊かな集落として繁栄しました。

美浜からは油桐（あぶらぎり）の実（ころび）を絞った油や、干鰯（ほしか）、米、素麺の他、一大産地であった早瀬の千歯扱き等が全国へ運ばれる一方、鯖や小鯛等の塩干物から、鉄や焼物といったさまざまな物品が美浜にもたらされています。

帆走する北前船（小浜湾　井田家旧蔵古写真・福井県立若狭歴史博物館提供）

日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」認定に向けた町の取り組み

（一社）北前船交流拡大機構事務局による構成文化財の現地確認

令和3年2月　（一社）北前船交流拡大機構及び敦賀市の打診を受け、（一社）地域連携研究所に自治体会員として入会

令和4年3月　「（一社）地域連携研究所自治体会員制度発足式」、「第30回北前船寄港地フォーラム in 秋田」に参加

5月　まちづくりと観光活用を目指し、早瀬地区等で認定に向けた本格的な調査を開始

8月　（一社）北前船交流拡大機構から当町出身の五木ひろし氏に「北前船大使第1号」が委嘱される

9月　北前船日本遺産認定に向けた有識者会議において、調査を踏まえた申請内容、活性化計画を検討

10月　（一社）北前船交流拡大機構事務局が来町し、構成文化財の現地確認

令和5年　町歴史文化館において企画展「千歯扱き」開催に伴い、全国への分布調査を実施

令和6年2月　PRチラシの作製及び配布

6月　町歴史文化館企画展「みはまに残る北前船の波跡」を開催

北前船PR動画を作製

文化庁へ追加認定を申請

日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」認定

町に残る主な日本遺産構成文化財

①

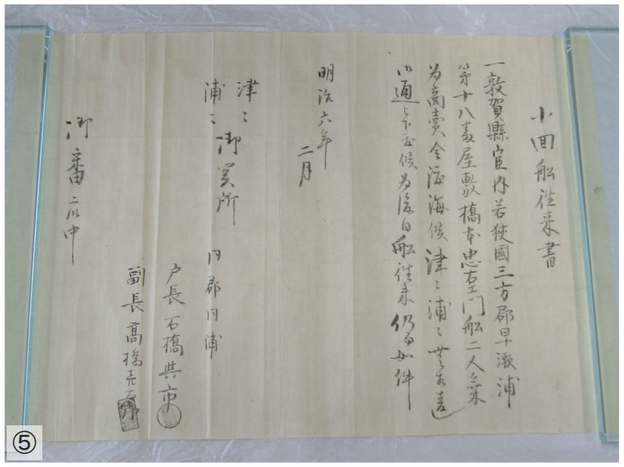
◆日本遺産構成文化財

日本遺産のストーリーに基づく、地域に受け継がれている有形・無形の文化財で、美浜町の構成文化財は、大小あわせて17件が登録されています。

②

③

④



⑤

⑥

① 早瀬区常夜灯

早瀬区内に祀られる日吉神社の石造常夜灯は 19 世紀に建立されており、同区内の恵比寿神社の常夜灯とともに、北前船が夜の海上から早瀬の位置を見失わないための目印にしたと思われる。

② 北前船幟旗

坂尻の船主家に伝わるもの。長さ 313cm 幅 55cm

③ 船絵馬『宇波西丸』

久々子の北前船主が所有していた歴代の船が描かれた絵馬。それぞれ北前船・合いの子船・洋式帆船の特性を持つ船で３隻並ぶ構図が描かれているのは珍しい。

④ 丹生金毘羅神社　船絵馬群

丹生の金毘羅神社に奉納したと考えられる北前船を描いた３点の絵馬で、そのうち１点は享和 ２年 (1802) の記年があり、船絵馬としては県内最古級。

⑤ 北前船関係文書

船往来文書。早瀬に着岸できない大型の北前船の積荷運搬のため運航されていた小廻船（こがいせん）の往来を認める明治６年 (1873) の書状。

⑥ 船箪笥

久々子の船主が所蔵していたもの。非常に丈夫で水に強く、気密性が高いため海に浮かぶことから、海難事故の多かった北前船では、重宝されていた。

構成文化財の一覧はこちらから

町に伝わる北前船文化

早瀬日吉神社奉納模型船

早瀬日吉神社神輿　水無月祭に用いられる

早瀬日吉神社曳山　毎年５月に上演される子供歌舞伎の舞台として使用されている

INTERVIEW

北前船船主の御子孫が語る

未来に繋ぎたい布絵と故郷

〈弘子さん〉

私の先祖は、北前船の中で小さい部類の小廻船で、島根県の浜田から新潟県の村上まで航海し、生計を立てていました。当時の早瀬には、多くの北前船が寄港し、大変賑やかな町だったと聞いています。

私が作る布絵作品には、北前船や早瀬の景色を多く描いています。親元の家を解体している際に、先祖が実際に使用していた櫂（かい）が屋根裏から落ちてきました。私にとって北前船や当時の早瀬を語り継がなければならないという先祖からの使命と感じ、これをきっかけに布絵の作品を展示するようになりました。

先祖から継いだこの想いを、後世に繋いでいくためにも、子や孫に伝えていきたいと思います。

↑弘子さんが作製した北前船の布絵

渡辺　純造（じゅんぞう）さん・弘子（ひろこ）さん夫妻
（早瀬）

〈純造さん〉

私が小さい頃の早瀬は、北前船が寄港していた頃の活気が残っており、映画館等の娯楽施設がありました。また、お祭りにも若狭地方の各地から人が集まって来るほど大いに賑わっていました。

日吉神社にある神輿や、子供歌舞伎の舞台に使われる曳山は、早瀬の船主や住民のご先祖たちが力を合わせて作られ、現代まで受け継がれています。日本遺産に認定されたことは、大変嬉しく思うと同時に北前船の寄港地・船主集落である早瀬を守り、育ててきたご先祖たちに感謝と誇りを感じています。

認定を機にご先祖が残してくれたこの地域と文化を若い世代の方にも知っていただき、住民が団結して早瀬を守り、興し、未来に繋いでいきたいと感じています。

北前船船主の御子孫が語る

後世に語り継ぎたい先祖の功績

中西　従介（つぐゆき）さん
（久々子）

私の曾祖父の中西庄吉（しょうきち）さんは、北前船の船主・船長として明治16年から39年まで、海運業を生業として航海をし、美浜からは、農作物や油となる油桐の実、お酒等を運んで全国各地の寄港地で商売をしていました。また、北海道から大阪まで、全国を駆け巡っていたため、家に帰るのは年に数日しかなかったと聞いています。

23年の間に船を3隻乗り継いでおり、海運業を引退した際に、大阪の絵馬師に3隻の北前船の絵を依頼し、描いてもらったそうです。（第8頁③の舟絵馬）私が小さい頃から家に飾ってあったので良く知ってはいましたが、今回の日本遺産の構成文化財の1つとなったことには、驚きましたし、大事に残してきて良かったな思います。他にも、庄吉さんが佐支神社に奉納した奉納御座船も構成文化財となったことも嬉しく思います。

日本遺産の認定を受けて、危険と隣り合わせで航海をしていた先祖を改めて誇りに思い、先祖から受け継いだ話が途切れないように、語り継いでいきたいと思います。また、これを機に、北前船に興味を持つ人が増え、構成文化財を見に来たり、美浜を訪れる人が増えてくれることを願っています。

↑中西庄吉氏（屋号 喜助）が奉納した佐支神社奉納御座船

北前船のさまざまな史実・歴史文化を まちづくり・地域の活性化へ

美浜町長　戸嶋　秀樹

↑６月28日に、北前船フォーラムin釧路で日本遺産認定証を受け取った戸嶋町長（右から２番目）と加藤教育長（左から２番目）

我が町の先人たちが大海原を舞台に北前船で広く交易をしていた史実が公に認められ、誠に喜ばしく先人たちの活躍と心意気を誇りに思います。

北前船に関する様々な調査に取り組むにあたり、地域の皆様には地域に伝わる北前船文化や神社や船主の家で守られてきた文化財の調査について、全面的なご協力をいただき、日本遺産認定という素晴らしい成果を得ることができました。

この成果は、北前船という史実を通して繋がった町と地域、関係者の皆様の努力の賜物であり、ご尽力いただきました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

調査の結果、早瀬の子供歌舞伎の曳山や水無月祭の神輿は船主や廻船問屋が寄進したとされていることや久々子には北前船ゆかりの羅針盤や船箪笥、坂尻には織旗、丹生には航海の安全を祈願した県内最古級の船絵馬が現存していることが分かりました。

私たちは、こうした貴重な文化財の歴史的価値を深く理解し、その文化や伝統等現代に受け継がれているものを誇りをもって後世に伝えていかなければなりません。

町としても、日本遺産に認定された史実を活かした地域づくり、まちづくりを地域の皆さんと共に取り組んでいく所存ですので、これまで以上のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

↑山王祭礼で曳山を引く人々（早瀬）